

そっ たく

啐啄

平成 28 年 5 月 1 日 刊行 No. 10

編集・発行 大島町教育委員会

教育文化課事務局

TEL 04992-2-1453

題字「井島 吉春」

振り返ってみれば・・・

教育委員長 白井良平

教育委員長は、毎月の定例教育委員会の議長として議事の進行を務め、議案を審議したり事務局が行っている事業報告を検討したりすることが主な仕事ですが、それとは別に、大島町の主催する会議や行事に出席させていただくこともありました。

教育関係での大きな役割が『入学式』と『卒業式』での来賓祝辞、そして新規に大島町立の小中学校に着任される教職員の方々への『辞令伝達』とその後の式辞です。

この5年近くの間、様々な場面でお話をさせていただきましたが、自分としては一定の教育観や児童・生徒観を持ち続けてきたと自負しています。

端折りすぎて誤解を生むかも知れませんが、敢えて簡単に列挙してみますと・・・

- 教育という職業は、子どもたちの将来を担って指導・支援するゆえに、崇高な職。
「自立してから歩む人生は一人ひとり違うのだから、その準備も一人ひとり異なる」
 - 子どもにとっての第一ステージは未就学の時代で、主に五感を養い培う時。
「視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚の発達とともに、自然や人間の世界を全身で感じる」
 - 第二ステージの小学校時代は、頭と身体の使い方を学ぶ時。
「『徳・体・知』といわれるように、各教科や特別活動などで人格の基礎を身につける」
 - 第三ステージの中学校時代は、人との関係を学ぶ時。
「家族・友だち・先生・先輩後輩・異性」などとの人間関係に心が揺れたりぶれたりする」
- このような各ステージを認識し、一人ひとりの児童・生徒のもつ能力を見極め、個々に合った指導・支援を行うことが、教師の責任だと考えてまいりました。

さらにいえば、学習能力や運動能力、芸術的な能力は「無いよりは有った方がよい」という類のもので、人として絶対に必要なものは「自然を愛し、自然と共に生きる。人を愛し、人と共に生きる」その『心』だと信じております。

これまで、勝手気ままに話し、書いて参りましたが、これで「お役ご免！」となります。

長い間のご理解・ご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

活字と手書き文字 その2

教育委員長職務代理者 井島 吉春

今年も卒業、入学と多くの子どもたちの名前に触れる機会があり、改めて親というものは深い愛情と願いを込めて文字を選び命名していると感じた。それらはかなり凝っていて難しい漢字や読みにくい名前が多い。簡単な名前より難解な名前のほうが優秀な人間に育つのではないかとの思いがあるのだろうか。いや、日本人は文字に対してものすごくこだわりがあり、文字が好きなのであると推察する。

前回、活字と手書き文字について書いたら偶然にも文化庁から「トメ、ハネ、幅広く許容」という指針を作成中だと新聞各紙に載った。書道界ではもともと文字に対する許容の幅が広く、とても良いことだと思ったが、このことは今新しく定められたことではない。歴史上いろいろな書き方が存在するが、現実にはあまりにも活字にこだわりすぎて役所などでの申請に支障が出ているとのことで改めて指針を出すことになったようだ。

一方、気になることもある。指針では「学校で教わった文字と印刷文字、それぞれ正しい形とする」という。読みやすさを重視し、発展してきた印刷文字も正しいとすると、たとえば「シンニョウ」など印刷文字をそのまままねて書いたら奇妙な形の文字になる。

そこで重要になってくるのが学校での教育である。昔は学校の先生と言えば字がうまいに決っていた。師範学校出身の先生の板書など、ほれほれする程うまくて消すのがもったいないぐらいだった。現在、情報機器の普及などによって学校現場では手書きがそれ程重要視されておらず、残念なことに文字を書くのが苦手な先生が多い。

しかし絶望している訳ではない。先生方は数々の難関をくぐりぬけて、ようやく「先生」という「聖職」にたどり着いた教育のプロである。文字に対していいかげんな気持ちでいけば子ども達もいいかげんになることぐらいわかっているはずである。才能や素質などと言い訳で逃げてはいけない。どんなに世の中がオートメーション化しても文字を手書きすることがなくなることは決してないのだ。

姿勢を正し、心を落ち着かせ、集中して稽古を繰り返せば必ず上達するという学ぶ心、ねばり強い心を子ども達に是非指導してほしい。日本の文字文化の将来は子ども達にかかっている。先生方の使命は重大なのである。

3月（卒業）

教育委員 藤田 月

3月は学校の卒業式、職場の異動や退職、日本では人の別れの季節と言われています。3月18日第三中学校卒業式、3月24日つつじ小学校卒業式に出席させていただきました。毎年そうですがいずれも大変すばらしい卒業式であり、心身共に成長された子供たちを拝見し、その陰には学校の先生や保護者の皆さんの素晴らしいご指導やご支援があったことを確信しました。子供たちもいろいろな思いが頭の中をよぎったのでしょう涙する姿に私も胸を熱くさせられました。

さて、我が家も3男がこの春やっと大学を卒業し、4月1日より社会人となりました。6年前志望する大学に現役では入れず、18歳の彼は大学浪人という大きな決断をしました。したがって高校卒業という祝福の気分には本人はもちろん私たち家族はなれませんでした。どうしても希望する学校に入りたいということで、1年間予備校通いをし、正月も返上して島には一度も帰ってきませんでした。自分なりに覚悟決めた大きな選択だったのでしょう。当時、長男が大学4年、二男が大学2年と経済的にも非常に厳しい時ではありましたが、親として子どもの選択した道が正しければそれを阻むことに後悔はしたくなく、あまり無理をしないようにと見送り、彼は島を後にしました。翌年、見事目標を達成し、いい選択だったことを証明してくれました。男3人、大学まで卒業させることは決して楽なことではありませんでした。私たち夫婦も子どもたちの頑張りに励まされ、それを糧にやってきたのかなと思います。いつまで経っても親は親、子は子ですが経済的支援も終わり、やっと私たちの子育ても卒業かな？安堵感とちょっぴりさみしさと。



人生を豊かにしているのは

教育委員 岡山 日出子

『あなたの人生を豊かにしているのは、世界の大富豪でもないし、数々の賞を持っているひとでもありません。そうでなくて、あなたのことを気にかけてくれている人たちこそが、あなたを幸せにしてくれるのです。

チャールズ・M・シュルツ（ピーナッツの作者）』

スヌーピーという犬が出てくる漫画をご存知ですか？漫画を読んだことがなくても、どこかとぼけた様子のスヌーピーと仲間たちのキャラクターは目にしたことがあるのではないのでしょうか。その作者の言葉だそうです。

そしてもう一つ、

『今頑張っていることの意味は、未来の私にしかわからない。

2012 駒大メトロ車内広告』

これらは、目について書き留めてあったものです。目先のことにとらわれ大切なことを見失いがちな、年齢を重ねるごとに諦めることが上手くなった自分への戒めのように感じたのかもしれない。

多くの出会いや別れ、新しい門出を迎えたこの時期、皆様には何か響くものがあるのでしょうか？

感謝とお礼

教育長 石川 龍治

丁度5年前に就任し、この「啐啄」第10号が発刊される頃は、退職し一人の町民の立場からこの広報誌を手にはしていると思います。第1号発刊に寄せての投稿の中で、

『大島町教育委員会の教育目標には、「人間尊重の精神を基調とし、子供たちが、知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ、人間性豊かに成長する事を願い、学校教育と社会教育の緊密な連携のもとに（中略）教育は、家庭、学校及び地域のそれぞれが責任を果たし、連携をして行われなければならないものであるとの認識にたって、すべての町民が教育に参加することを目指していく。」と述べられています。この広報誌が「町民が連携し、地域の宝である子どもたちを皆で育てる事への一助となること」を願っています。（中略）

その1は、何といても家庭です。研究者の言によると、子どもが初めてかかわりをもつ家庭という社会の中で、親から、（中略）汚くてもうるさくても愛される「無条件の愛」を享受することで、自分優先ではなく相手を思いやる、人としての人間関係の原則を学ぶそうです。

その2は学校であると言えます。読み書き計算と集団生活の中で身につけるものがここでは大量に提供されます。（中略）

その3は地域です。地域が子どもを育てる、（中略）地域の大人が、社会規範の手本となり、子どもたちの生きる力を育てる、そのことに大いに期待するところです。

そしてもう一つ、自立に向けて支援の必要な子どもたちへの支援体制の確立です。（中略）

家庭、学校、地域そして行政が連携し、教育という大きな課題に取り組めたらと願っております。』と述べました。そして、その実現を目指してきたつもりです。数々の人とのかかわりの中で、ご指導を頂きながらの道のりでありましたが、皆様に感謝とお礼を申し上げます。

そして、ここ大島の歴史と文化が日の目を浴び花開くことと共に子どもたちの教育環境の充実がされることを願っています。

大島町の児童生徒の学力向上へ その2

平成27年度に立ち上がりました大島町学力向上推進委員会は、平成28年度いよいよ具体的な活動を開始いたします。

<学力向上推進委員会の目標>

1 大島町として必要と考える知識・技能の確実な定着

基礎的・基本的な知識・技能は、子供たちが将来進学や職業を選択する際には、まさに基礎的・基本的な力になります。入学検査などでは見える学力となります。狭い意味での学力ともいわれることがあります。これも大切な学力です。この学力を確実に定着させるとともに、思考力・判断力・表現力等の向上を図り、基礎・基本を活用する力を育成します。

2 大島町の考える望ましい生活習慣の定着

素晴らしい自然の中で健やかに育っている子供たちですが、日常生活におけるデジタル機器の使用など一つ見ても、子供たちの生活環境は大きく変化しています。大島でのより良い生活に向けての生活習慣の改善と家庭学習の充実を図ります。

3 学び続ける態度や課題に粘り強く取り組む力の育成

子供たちの運動・文化的行事における取り組みや継続力などについては、これまでの取り組みで一定の成果がでています。今後とも工夫・改善を図ります。学習においては、子供の実態や指導内容等に応じて様々な工夫を行うことにより、「わかる授業」を行い、子供たちの学習意欲を高めることが、学力を育む上でもとりわけ重要です。また、学校と家庭とが連携しながら学習習慣を身に付けさせることが、生涯を通じて主体的に学び続けることのできる学習意欲を持つことにもつながります。その意欲を態度や取り組みにつなげる、耐える力と継続する力の育成を目指します。

この3つの目標達成のために、推進委員会のもとにA～Eの5分科会を設け、活動します。各分科会の活動内容は以下のとおりです。

A分科会 教員の授業力と児童の実態把握、活動方針の検討

B分科会 大島町としての授業のあり方の検討

C分科会 大島町として子供たちに付けたい学力の検討

D分科会 子供たちの望ましい生活習慣の検討

E分科会 学校行事や町行事への取り組み方などの検討

平成28年度の活動

昨年度の各分科会の検討を受けて、学力向上推進委員会で28年度の活動内容を以下のように確認しました。

A分科会 平成27年度に実施したアンケートの結果として、①児童・生徒は、自ら進んで学ぼうとする態度に欠ける面がある。②与えられた課題や問題には取り組もうとするが、先生の話を中心して聞く態度が不足している傾向がある。③進んで学んだり、発言したりする態度が不足している。④家庭での学習で何をしたら良いかわからない子供が多い。などの課題が見えた。教員の指導については、①今日の指導の目的明示などはほぼ徹底されているが、内容指導に時間を要することから時間内の振り返りが不足していることが多い。② ①の結果、家庭学習をする際の内容や方法が、児童・生徒にわかりにくいなどが挙げられた。

B分科会 ・大島町の学習スタイルをつくる。

・大島町学習スタンダードの検討・策定を行う。

C分科会 ・大島町評価基準と大島町で付けたい力を検討し、策定する

・小中学校での系統を意識した評価基準を作成する。

D分科会 ・大島町学習スタンダードを策定し、町としての家庭学習のあり方や授業に臨む姿勢等を策定し、全学校で推進していく。

・学習習慣については、家庭特に幼児や小学校低学年の保護者を対象にした啓発を行う。

E分科会 ・小・中学校共通テストの実施を行う。

・学校行事の精選や町行事の取組を工夫することで、子どもたちと向き合う時間や授業時間を確保し、授業や教員の質的向上を目指す。

・大島で必要な学力を6校で共通理解し、家庭学習の在り方等を啓発する。

児童・生徒は学校を卒業し社会に出ます。その社会は絶えず変化します。変化する社会に対応するためには、学校卒業までに身に付けた知識・能力だけでは不十分です。自分の置かれた場所で今何が必要で、何を解決しなければならないのかを自ら考える必要があります。解決のために新しい知識や技能を学ぶ必要も出てきます。社会に出た後も学び続けることが必要です。

そのための基礎・基本を明確にし、確実に身に付ける授業を構築し、自ら学ぶ児童・生徒を育てることが重要です。学校、家庭そして大島町全体で推進したいと思います。

大島町学力向上推進委員会

会長 山田 三正

つばき小学校

「学校・家庭・地域の連携を通して」

大島町立つばき小学校長 立木 功

一人一人の子供が持つ可能性には、限りがないと言えます。その発見、そして伸長は、学校・家庭・地域の三者が関わることで、より一層引き出すことにつながります。そのためには、徳（道徳面）・体（心身の健康面）・知（知識面、知恵面）のバランスのとれた成長を促すことが大切であると考えます。

それぞれの面において、学校が行うこと、家庭が行うこと、地域の力をお借りすること等、役割を明確にしつつ、共に手を携え、社会・地域の宝である子供たちを育てていくことが重要であると捉えています。

全校児童137名が、「明日、また来たい」と思える学校を、そして、家庭・地域の方々、「協力していこう」と思える学校を目指し、全教職員一丸となって、教育活動に取り組んで参ります。今年度も、御支援と御協力をよろしくお願いいたします。



さくら小学校

さくら小のキャリア教育は ふるさと学習です！

～「ふるさと先生」を募集しております！～

本校児童は、生活科や総合的な学習の時間を中心とした『さくら小 ふるさと学習』により、大島の自然・文化・特色等を計画的に学んでいます。「ふるさと先生」（現在12名登録）のおかげで、『さくら小 ふるさと学習』がより一層充実し、児童の郷土大島を誇りとする豊かな心を育んでいます。



[各学年の取組の様子]



[本校ふるさと先生]

つつじ小学校



つつじ小学校のエコ委員会の子供たちは、各家庭にあるアルミ缶を回収しています。アルミ缶の再利用は資源の有効利用や地球環境保全にとっても大きな意義のあるということを親しみやすい「ゆるキャラ」を使って広めました。

また、海洋国際高校ボランティア部の生徒がつつじ小学校に来て、活動内容について教えてくれました。どれだけアルミ缶をリサイクルしているのか、リサイクルで得たお金はどんなことに使われているのかなどクイズ形式で学ぶことができました。

大島の身近な自然を守ることを通して、地球の環境問題の解決へと導いていきたいです。



第一中学校

第一中学校は男子11名、女子9名、合計20名の新入生を迎え、平成28年度をスタートさせました。入学式翌日、生徒会主催で新入生へのオリエンテーションを行い、中学校生活の紹介や教科担任制の授業、生徒会活動、部活動についての説明を2、3年生の先輩たちが行いました。その後、「全校フルーツバスケット」というゲームを生徒と先生が一緒になって思い切り楽しみました。新入生を歓迎しようという気持ちが伝わり、2、3年生の先輩としての自覚の高さを強く感じさせてくれたことがとても印象的でした。



また、平成26年度から実施してきた夏井いつき先生の「句会ライブ」を今年度も実施する予定です。現在日程調整中で詳細は未定ですが、決定次第校報等でお知らせします。誰でも気軽に参加できる句会ライブです。是非ご来校いただき、一中生と一緒に俳句を楽しみましょう。

第二中学校

副校長 中山 泰

平成28年度がスタートしました。

4月6日、23人の新入生が入学し、全校生徒77名となり大島町で最も人数の多い中学校になりました。教職員も2名が入れ替わり新しい雰囲気でもスタートしました。今年度も『質実剛健』の校訓のもとで『文武両道』をモットーに、勉学・運動・部活・行事などに一生懸命に取り組みます。

生徒数

教職員数

	男子	女子	計
1年	9	14	23
2年	11	21	32
3年	15	7	22
合計	35	42	77

職名	男	女	職名	男	女
校長	1	0	講師	0	1
副校長	1	0	SC	0	1
主幹	4	0	ALT	1	0
主任	1	0	用務員	0	3
教諭	2	6	警備員	2	0
養護教諭	0	1	給食配膳員	0	3

28年度の主な学校行事（是非、御来校下さい！）

7月 9日（土）	道徳地区公開講座
7月30日（土）	校内水泳記録会
10月 2日（日）	小中合同運動会
11月 2日（水）	校内マラソン大会（サンセットパームライン 野田浜～赤禰）
11月23日（水）	地域研究発表会

第三中学校

百人一首大会



《3年生》



《2年生》



《1年生》

「秋の田の～」 「はい!」 上の句を詠み終わらないうちに、下の句が書かれた取り札を取るなど、静寂と感嘆の声が体育館に響き渡りました。国際理解教育の一環として、毎年体育館に畳を敷いて、源平合戦を全学年で実施しています。札の読み手は、国語科の教員を中心に、各学年の先生方にも協力していただきました。日本の古き良き伝統を、これからも大切にしていきたいと思ひます。

教育委員会カレンダー－5月～9月

月	日	内 容	場 所
5	21	大島町体育祭ゲートボール大会	伊豆大島ゲートボール場
5	29	大島町体育祭バレーボール大会（婦人の部）	都立大島高等学校
8	3	大島町体育祭水泳大会	弘法浜プール（仮称）予定
8	28	大島町体育祭野球大会（一般の部）	大島町野球場他

事務局からのお知らせ

学校教育係	社会教育係
<p>4月4日に平成28年度・辞令伝達式を行いました。</p>  <p>また、28年度は下記のとおり学校の改修を行う予定です。 「二中体育館大規模改修」 「つつじ小・三中太陽光パネル設置」</p>	<p>社会教育係ではスポーツ振興のため、下記のとおり大島町のスポーツ施設の改修工事を行いました。また、今年度も引き続きスポーツ施設の改修を行っていく予定です。</p> <p>「平成27年度体育施設改修」</p> <ul style="list-style-type: none"> 大島町野球場 「外周フェンス改修工事」 「グラウンド改修工事」 「野球場トイレ洋式化工事」 伊豆大島ゲートボール場 「ゲートボール場改修工事」 「ゲートボール場トイレ建設工事」
給食センター係	図書館
<p>給食センター係からのお知らせ</p> <p>給食センターでは、平成27年4月より給食調理及び配送・配膳、片付け等を一富士フードサービス株式会社へ委託しております。</p> <p>教育委員会では、調理等委託業務が仕様書通りに適正運用されているかを、1年毎に検証・評価し調理等業務委託業者選定委員会に諮り、その結果を町長に報告しております。</p> <p>平成27年度、業者検証においては、高評価の点数となりました事をご報告します。今後も子供達に、より安全で美味しい給食が提供出来るよう努めてまいります。</p> 	<p>ひまわり号ではボランティアの募集をしております。内容は本の貸出作業、車の運転（普通免許運転できます）、本の登録作業等で第1・3・4土曜日に運行しています。興味のある方はひまわり号事務局（大島図書館）までご連絡下さい。</p> <p>☎04992-2-2392（月曜休館日）</p> <p>平成27年度貸出実績 北部地区：15回 239冊 南部地区：11回 87冊 保 育 園：10回 395冊</p> 

※啐啄（そったく）とは

鳥の卵が孵化しようとするとき、殻の中で雛鳥が外に出ようとして内からコツコツ殻をたたき音を「啐」といい、母鳥がその孵化の瞬間を悟り、殻の外をコツコツつき破ることを「啄」といいます。この啐と啄の呼吸が合うとうまく殻が割れ、丈夫な雛が誕生しますが、どちらか早すぎても遅すぎても良い雛は生まれません。教育も教える側と教わる側の生徒が、啐啄同時である事が理想であり、依って大島町教育委員会便りを『啐啄』と名づけました。